

第2回福井CSTシンポジウムのご案内 ～サイエンス教育の充実とその支援～

■日時：2013年2月16日（土）13:10～18:00 受付12:30～（開始時刻を少し早めました）

13:10	13:25		14:10		15:10		16:20		18:00	19:20
開会式	講演	休憩	事業関連 報告	休憩	ポスター・ ワークショップ	休憩	口頭発表	閉会 式	情報 交換会	

講演 「全国学力・学習状況調査から見えてくること」

福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター 准教授 岸俊行 先生

■会場：福井大学文京キャンパス 総合研究棟 I 13階（福井市文京 3-9-1）

■研究発表のお申し込み

- 1) 締切：2013年1月18日（金）
- 2) 発表者：CST, CST養成プログラム受講者, CST事業関係者およびCST事業に関心のある方
- 3) 発表内容：CSTに関連すること（養成・教材開発・実践・研修・プログラム・活動など）
- 4) 発表形式：口頭発表（6件程度）、ポスター発表またはワークショップ形式
(注)発表件数により、口頭からポスター発表への変更をお願いする場合があります。
- 5) 発表時間：口頭発表の場合、15分（発表12分、質疑応答3分、交代を含む）
ポスター発表またはワークショップの場合、60分
(希望者には、可能な範囲で長机・椅子・電源等準備いたします)
- 6) 準備できる機器：液晶プロジェクター（口頭発表の場合）
- 7) 申込方法：官製葉書又はE-mailで、発表題目、発表形式、氏名、所属とその所在地、連絡先住所、電話/FAX番号、E-mailアドレス、情報交換会の出欠、および使用する機器を記入して下記にお申し込みください。
なお、共同研究者についても氏名と所属を記入してください。
- 8) 要旨原稿：A4判 縦、横書（様式は福井CSTのHPよりダウンロードして下さい。）1～2枚
- 9) 原稿提出締切：2013年1月25日（金）必着。可能な限り、メール添付で提出願います。
Pdf形式での原稿提出を推奨しますが、Word、一太郎でもかまいません。

■参加のお申し込み

- 1) 締切：2013年1月25日（金）
- 2) 申込方法：E-mailで、氏名、所属とその所在地、連絡先住所、電話/FAX番号、E-mailアドレス、情報交換会の出欠を記入して下記にお申し込みください。

■会費

- 1) シンポジウム参加費：無料
- 2) 情報交換会参加費：4,000円（当日、集金します。事前申込をお願いします。）

■申込先および連絡先

〒910-8507 福井市文京 3-9-1
 福井大学教育地域科学部 CST企画運営事務局 宛
 Tel&Fax: 0776-27-8687（浅原） または 0776-27-9928（CST企画運営事務局）
 E-mail: cstfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp

←左の余白は25ミリ

↑ 上(下)の余白は30ミリ

右の余白は25ミリ→

中学校教員のCST活動 題名は16ポイント、ボールド

単元「物のとけ方」での教材開発と実験講習会 副題は14ポイント使用

○越前太郎^A, 福井次郎^B, 小浜花子^C 氏名・所属は10.5ポイント使用。
FUKUI Taro, ECHIZEN Jiro, OBAMA Hanako

越前中学校^A, 福井大学大学院^B, 日本海小学校^C

【キーワード】 理科授業, 粒子概念, 教材研究, 小中連携 5語以内

標題と本文は1行開ける。本文は、2段組とする。余白を上下30ミリ、左右25ミリとする。

1 目的

小学校5年単元「物のとけ方」における理科学習は、・・・。

(本文は10.5ポイント活字。1行当たりの語数と行数は、著者で決めて良い。)

鯖江(2011)は・・・と指摘している¹⁾。

2 方法

(1) 教材研究

粒子領域における教材研究を行った。授業時間数は表1に示す。

表1 学習指導要領中の教科の時間数

--

1) 教材開発の背景

これまでの実践および先行研究から以下の教材が利用されたり、提案されたりしている。

- ① ○○
教科書では、・・・。
- ② △△
勝山らは、・・・。

2) 教材開発の考え方

以上の調査と

(2) 実験方法

実験の過程は・・・・・・・・・・。

(3) 実験講習会の実施

平成24年〇月に、地域支援拠点(小学校)で・・・・・・・・。

3 結果

以上の結果は～～であった。

.....
.....

↓ 下の余白は30ミリをとる。

実験・観察中の様子を図1に示す。児童にとっては、操作性が向上し、・・・。



図1 実験中の様子

これらの結果を整理すると表2のようである。

表2 新教材と従来教材の比較

4 考察

単元「物の溶け方」における理科学習は、中学2年生での原子・分子の学習に繋げる単元の一つであり、・・・・・・・・。

附属学校園(2011)は、・・・・・・・・と述べている²⁾。

5 まとめ

本研究では・・・・・・・・のことが明らかになった。

参考文献

- 1) 越前次郎『小学校における粒子領域の学習展開』北陸出版(2011)。
- 2) 附属学校園「粒子分野における新教材の開発」, 理科教材研究, Vol.1, No.2, pp. 34-56(2011)。

要旨は、1または2ページで作成のこと